

München



ミュンヘン市の概要

ミュンヘン市は、ドイツ連邦共和国の南部に位置する同国最大の州、バイエルン州の州都。ベルリン、ハンブルクに次ぐドイツ第3の都市で、南ドイツの経済・政治・文化の中心地である。ヨーロッパの中心という地の利点を生かし、国際会議、国際見本市が数多く開催されている。また、12世紀以降、バイエルン王国ヴィッテルスバッハ家800年の王城の地として栄え、学問や芸術を愛した歴史の王たち残した、豪華な宮殿や美術品が残されている。



München —ミュンヘン市の概要—

地 勢

ドイツの南部に位置する同国最大の州・バイエルン州の州都であるミュンヘン市は、北緯 48 度 8 分、東経 11 度 34 分に位置し平均海拔 519m に位置します。

バイエルン / オーストリアアルプスの山々が約 60km 南に横たわり、ここを源とするイザール川が街を貫き、ドイツアルプス地帯からの湧水は、ミュンヘン市水道の重要な水源になっています。

気 候

札幌よりも高緯度に位置しますが、大西洋海岸性気候と大陸性気候の変わり目にあたり、温暖な気候です。7～8月には日中の最高気温が 30 度を超える日もありますが、湿度が低いいため比較的過ごしやすいです。

2022 年の年間平均気温 11.3 度、日照時間 2,278 時間、降水量 598mm。

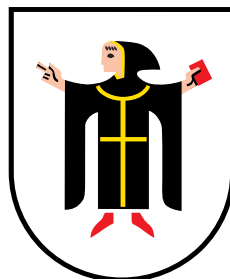
人 口

158 万 8,330 人 (2022 年 12 月現在)。

大都市であるにも関わらず、都会の冷たさがなく、お祭りの活気があふれる街ミュンヘンは、「100 万人の村」という愛称を持っています。また、外国人 (478,314 人、うち日本人 2,883 人) が非常に多く、国際色豊かな都市であると言えます。

市 章

氏名の由来「修道僧の住むところ」にちなみ、修道僧をモチーフにした絵柄が用いられています。デザインはこれまでに数回変わり、1957 年に現在のものが制定されました。





München —ミュンヘン市の概要—

歴史

ミュンヘンは、10世紀にベネディクト派の僧侶がイザール河畔につくった集落が起源で、「修道僧の住むところ」という言葉が名前の由来となっています。ミュンヘンの街の歴史は、1158年にハインリヒ獅子王がイザール川に新しい橋を架け、塩の取引には必ずミュンヘンを通るようにしたことからはじめます。修道院のある小さな村だったミュンヘンは、この通行税で豊かになり、発展していきました。

1180年にはヴィッテルスバッハ家の支配下に置かれ、王宮所在地としてドイツの首都となったこともあります。美術を愛したヴィッテルスバッハの大公たちが収集した美術品は、今日にも多く残されています。

17世紀から18世紀にかけて、ミュンヘンは「ドイツのローマ」と呼ばれ、バロック様式の建物が盛んに建設されました。1806年に王国となったバイエルンでは、「ミュンヘンをドイツの誇りになる都市にしたい」として、古典主義の建築物を市内に完成させました。

第2次世界大戦では、ミュンヘンの45%が瓦礫の山と化しましたが、見事に復興を果たし、1972年には夏季オリンピックが開催されました。この大会を機に地下鉄や郊外電車が整備され、今日の経済発展へとつながりました。



イザール川

写真提供：ドイツ観光局

ヴィッテルスバッハの居城
「レジデンツ」

写真提供：ドイツ観光局



München —ミュンヘン市の概要—

行政

ドイツの地方自治体の組織構造は「参事会制」「市長制」「北ドイツ議会制」「南ドイツ議会制」の4つの形態がありますが、ミュンヘン市は住民が直接選出した市長が議会の議長と行政の長を務める「南ドイツ議会制」をとっています。

ミュンヘン市は3人市長制をとっており、第一市長には「大市長」の呼称が与えられ、副市長は第二市長、第三市長と呼ばれています。(市の組織構造は63ページ参照)

大市長は6年ごとに公選されますが、第二、第三市長は市議会がその構成員の中から選出しています。

また、ミュンヘン市は「バイエルン州市町村法」によって、郡と同格の都市とされています。バイエルン州の州都で、25の「市区」からなっています。

産業

ミュンヘンは世界有数のハイテク産業地域で、多くのグローバル企業がその拠点を置いています。ドイツ株価指数(略:DAX)の主要40企業のうち7社(アリアンツ、BMW、リンデグループ、ミュンヘン再保険、シーメンス、MTU、インフィニオン)の本社がミュンヘンにあり、ドイツ国内で最も多くなっています。そしてミュンヘンには、ドイツ特許局とヨーロッパ特許局もあります。

2021年の総生産高は約1,287億ユーロで、これはバイエルン州の総生産高の19.3%を占めており、就職者一人当たりの総生産高は112,284ユーロ、住民一人当たりの総生産高は86,529ユーロに及びます(内訳:融資・賃貸・対企業サービス業32.2%、製造業21.5%、商業・レストラン・ホテル業・交通27.9%、サービス業18.4%)。

社会保険加入の就業者(自営業者や公務員などを除く)は約93万人で、失業率はドイツ全国の5.7%に対し、ミュンヘン市は4.5%と低くなっています(2022年)。

交通

ミュンヘン市中心部から北東へ約30kmに位置するミュンヘン空港(正式名称:フランツ・ヨーゼフ・シュトラウス空港)は、世界中からこの地を訪れる人々の拠点となっており、2022年には3,160万人が利用しました。

ミュンヘン市と近郊を結ぶ近郊高速鉄道(Sバーン)は、空港から市中心までを約40分で運行します。地下鉄(Uバーン)、市バス、市電とともに市内全域を網羅し、市民の足となっています。





München —ミュンヘン市の概要—

スポーツ・イベント

1972年のオリンピックを契機として造られたオリンピック公園は、85万㎡の広さを持つヨーロッパ最大級のスポーツ・余暇公園です。

日本と違い学校での部活動が無いドイツには、多くの市民スポーツクラブが存在しています。その中でも市営プールがとても人気で、2022年には市内18カ所の市営プールがあり、毎年約300万人が利用します。



また、ミュンヘンでは季節ごとにさまざまなイベントも開催されます。春・夏・秋に開かれる骨董市「アウアー・ドゥルト」、9月に開催される世界最大のビール祭り「オクトーバーフェスト」、冬の伝統行事「クリスマス市」のほか、カーニバルやフィルムフェスト、オペラフェスティバルなどが街をにぎわします。

教育

ミュンヘンの一般学校は347校あり、生徒総数は131,954人（2022年現在）です。小学校にあたるグルントシューレ（4年間・市内に159校）を終了した後、希望や学力によってミッテル/ハウプトシューレ、レアルシューレ（実科学校）、ギムナジウム（大学進学を前提とした中等学校）の3コースに分かれます（順に市内に58校、38校、57校）。

また、ミュンヘンは大学の街として知られており、2022年は140,260人の大学生がいます。ドイツの中で1、2を争う学生数を誇るミュンヘン大学には、51,500人ものが在籍しています。

図書館施設も充実しており、蔵書約1,124万冊を誇るバイエルン州図書館を始め、市立のものだけでも約30の図書館があります。

ミュンヘン市の姉妹都市

1954年	エジンバラ	(イギリス)
1960年	ベローナ	(イタリア)
1964年	ボルドー	(フランス)
1972年	札幌	(日本)
1989年	シンシナチ	(アメリカ)
1989年	キーウ	(ウクライナ)
1996年	ハラレ	(ジンバブエ)
2021年	ベエルシェバ	(イスラエル)

